

横浜医療情報専門学校

平成 26 年度学校関係者評価報告書

日時	平成 27 年 9 月 24 日(木) 17:00~18:00	
場所	横浜医療情報専門学校 3 階 セミナー室	
参加者	学校関係者評価委員	中村 ふじ (神奈川県警察学校 教育参与)
		二宮 克行 (医療法人財団 明理会 行徳総合病院 事務長)
		真野 誠 (日本電気株式会社 医療ソリューション事業部 シニアマネージャー)
	本校教職員	川上 隆 (教務部長)
		小松 加代子 (教務部 教務課 次長/2 年次学年主任)
		鈴木 和江 (教務部 教務課 主任/1 年次学年主任)
		平塚 智文 (教務部 教務課 主任/医療 IT 科 2 年次担任)
資料	・平成 26 年度自己点検評価報告書 ・当日説明用スライド資料	

<議論の要旨>

1. 学校関係者評価会実施にあたって

- ・学校評価委員の方のご協力もあり H25 年度に「職業実践専門課程」として無事に認定された。
- ・「職業実践専門課程」の設置ガイドラインの中に学校評価として「自己点検評価」、「学校関係者評価」を行うことが規定されている。今回実施するのは内部で実施した自己点検評価を踏まえた学校関係者評価である。評価委員の方々に、専門学校教育を理解する場として頂くと共に、同課程設置にあたって外部評価が重視されている事も踏まえ、現場からの様々な意見を頂きたい。

2. H26 年度自己点検評価の報告

- ・文科省ガイドラインに沿って自己点検評価を実施し、結果を報告した。
 - 卒業生へは、在校時に一斉発信できる仕組みを構築し、卒業後もそのツールを活用して、定期的に学校発信の連絡を入れ、卒業生との繋がりを継続させる。一度そのシステムが出来上がると、学校側が欲しい情報を卒業生に発信し、卒業生との交流ができる。また、質問内容等によっては、在校生へのカリキュラムに活かしていくことができる。(中村)
 - 「おうちにカエろう」のような取り組みは良い。ただ、現在の医療分野は病院包括的な考え方から地域包括的な考え方に変化している状況である。今後は企業や病院との連携はもとより、市や県などの自治体との連携を重視することで活動の幅が広がる。(真野)
 - 保護者等からの要請、苦情への対応手順を整備するには、まず、対応状況を入力しデータ化していくことから始めると良い。そのデータを共有、活用していくことにより、問題の深刻化や長期化を最小限に防ぐことへと繋がっていく。(中村)

3. 意見交換

結果報告を踏まえ、「主体的な学びを引き出すためカリキュラム設定」、「専門学校に期待される教育分野・形態」の2点において、今後の進め方に関する意見交換を行った。

<主体的な学びを引き出すためカリキュラム設定>

主体的な行動を取らせるためにどのような指導を行うと成果があると考えられるか、職場や高等学校でのご指導経験からご教授頂きたい。(小松)

→アクティブラーニングの取り組みは、主体的に取り組ませる点ではとても良いが、専門家に指導して頂くことも視野に入れた方が良い。取り組ませ方は、3人1組で、個人の考えを述べさせ他者と自己との相違点にも気付かせることも大切である。また、クラス編成に特進クラスのようなクラスを設け、学生同士に意見交換の場を与え切磋琢磨させ、それ以外の学生への波及効果を狙うことも大切である。(中村)

→2年 医療事務科のクラスは、目標とする就職先により編成している。そのため、就職先で必要とされている授業内容に変更している。(小松)

→就職活動でなかなか結果の出さない学生たちを集め、意見交換をさせる機会を設け、孤立感や挫折感の軽減をはかる手段としても同一目標を持っている学生を集めることは有効であると感じた。(川上)

→主体的に取り組ませるには、架空の役職(ポジション)を与え、その立場から考えさせ、調べさせることが有効である。(例えば、医療問題なら、厚生労働大臣の視点で考えさせる等)(真野)

<専門学校に期待される教育分野・形態>

医療業界に必要な人材

→学校として、どのような学生を輩出したいかにより、教育内容も変化していくので、一概に言えないが、IT分野の技術的な特徴で話すと、今後は、モバイルを使用してのIT技術の進歩や競争が激しくなる。学生の柔軟な発想力を活かし、その領域を通して技術力を磨いていくことが大事である。

(真野)

→自分を幸せにするには、何をしなくてはいけなさを考えさせることが必要であるため、その点を考えさせるカリキュラムはあった方が良い。(自分自身が何をすべきか考えられるようになると、他者へ何をできるかという視点も持てるため、社会の一員になる直前の専門学校では重要に感じる。)

(中村)

1. まとめ

・本日頂いた貴重なご意見については、今後のカリキュラムや学生指導に反映させて頂く所存である。

(小松)

・今後も外部の方の貴重なご意見を伺い、職場見学をさせて頂き、教員自身が、現在社会や職場で、必要とされている新しい知識を吸収し、学生へ展開できるようにしたい。また、学生への講演をお願いするなど、直接の交流の場を増やし、学校運営にも活かしていきたい。(川上)